■■■ 正規授業科目

本気プロ
マジプロ（地域連携キャリア開発）

「マジプロ」とは、本学の授業科目「地域連携キャリア開発」の通称ですが、元々は平成２０年度に教員と学生が立ちあげたプロジェクト「商大生が小樽の活性化について本気（マジ）で考えるプロジェクト」の略称です。平成２１年度に正課科目となりましたが、現在でも通称「マジプロ」と呼ばれています。

この授業は、学生チームが地域の企業や自治体等から依頼された課題、あるいは学生自らが発見した地域の課題に取り組み、実践を通じて地域活性化を図る課題解決型の授業で、本学の特徴である「実学」の精神に基づいた、小樽商科大学ならではの授業科目といえます。

今年度は 12 の課題に学生約 70 名が取り組んでおり、小樽運河の清掃活動を通じた市民力の向上を目指す「小樽運河クリーンプロジェクト」や、ご当地グルメとして注目を集める「小樽あんかけ焼きそば」のプロモーションを目的としたラジオドラマの制作など、産学官が連携した地域活性化の取り組みを実施しています。

国立大学法人 小樽商科大学

■■■ 木村泰知ゼミ（株式会社ＳＥＡ－ＮＡ）

小樽駅デジタルサイネージ

木村泰知准教授（社会情報学科）のゼミ学生が立ち上げたインターネット広告・宣伝業の「株式会社ＳＥＡ－ＮＡ（シーナ）」。小樽の特徴の一つである「海」と、ゼミ室の「４１７号室」から命名しました。

私たちが提案する広告媒体には、①電子看板「たるるん」、②フリーペーパー「たるるんぺーぱー」、③ウェブサイト「たるるん WEB」があります。'たるるん' は、お「たる」の「るん」るん♪しちゃう情報を発信!! ── というコンセプト。

私たちはこれらの媒体を同時に使用することで多くの皆様に小樽を知っていただき、小樽をより好きになっていただけると考えています。

企業名	株式会社ＳＥＡ－ＮＡ（シーナ）
所在地	〒047-0032　北海道小樽市稲穂３丁目１５－５　野口ビル
TEL/FAX	0134-22-0417
設立年月日	2008 年 9 月 30 日
資本金	11 円（取締役会非設置会社）
代表取締役	遠藤星地、大野紗季、佐藤優子、沼澤文香
メンバー	鎌田めぐみ、佐々木遥、古屋真理
事業内容	インターネットにおける広告・宣伝業 ホームページの企画・デザイン・制作・運営
会社サイト	http://www.sea-na.net/
サービスサイト「たるるん」	http://tarurun.com/

国立大学法人 小樽商科大学

■■■ 学長　山本眞樹夫

小樽商科大学の役割

本学は、2011 年に創立百周年を迎えました。本学の百年は、地域に育てられ、地域と共に歩んできた歴史です。そして、「地樹と共にある大学」という本学の使命を再確認し、本学にとっての新たな世紀へと船出しようとしています。

大学の地域連携、社会連携という場合、それは、大学にある知を社会に還元することと理解されているようです。私は、それとは異なる考えを持っています。大学に既にある知を作りだすこと、また地域社会と共に学生諸君を育てていくことが連携の意味だと考えています。

国立大学法人　小樽商科大学
学長　山本眞樹夫

本学は専門分野からいって、「ものづくり」に対する直接的な知を作りだすことはできないかもしれません。しかし、「もの」はなぜ価値を持つのでしょうか。どうすれば、その価値を一層高めることができるのでしょうか。商学という分野は、そうした問いと連携できると考えています。

北海道は、潜在的価値という観点からすると宝の山です。大きな可能性をもつ希望の島です。本学は、今後とも、北海道の活性化のために地域社会と連携していきたいと考えています。

国立大学法人 小樽商科大学

■■■ 中村秀雄ゼミ

超実践国際取引
学生が出資、商品企画、海外からの輸入、販売をすべて自分たちの手で

中村秀雄教授（商学研究科アントレプレナーシップ専攻）が担当する学部ゼミでは、実際に海外企業との国際取引を実践しています。学生は、①商品企画、②製造委託先の探索、折衝、③英文契約書等の文書作成と発注、④製品受入れ、⑤オリジナルグッズとしての販売 ── の一連のプロセスを自ら実施します。

中村ゼミではこれまでにも様々なプロダクトの製造・販売に成功してきました。今年度は小樽の街をモチーフにした絵柄のハンカチを商品化しました。学生自身による貿易は、小樽商科大学の実学の伝統を現代に活かす代表的活動です。

国立大学法人 小樽商科大学

■■■ 地域研究会

地域通貨 Tarca（タルカ）

「グローバリズムと地域経済」をテーマに、北海道社会の様々な問題に対する具体的な対応策を研究する小樽商科大学の組織「地域研究会」では、テーマの一つとして、地域内でのみ流通する通貨「地域通貨」を用いた地域経済の活性化について研究しています。

平成２４年１２月から、小樽市内の一部店舗でのみ使用可能な地域通貨である「Tarca（タルカ）」の流通実験を開始しました。

今回の実験では、地域通貨を小樽市内のお店で使っていただくことで地域経済の活性化を促すのみならず、小樽市内でのボランティア活動及び地域貢献に関する活動に対して地域通貨を配布することで、地域でのボランティア活動等の促進にも繋がっています。

国立大学法人 小樽商科大学

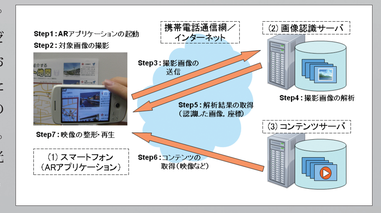
■■■ 深田秀実ゼミ

ＡＲ（拡張現実感）を用いた観光情報提供システム

「地域情報化」を研究テーマにする深田秀実准教授（社会情報学科）のゼミでは、ＡＲ技術を用いた観光情報提供システムの開発に取り組んでいます。

ＡＲ（Augmented Reality、拡張現実感）はデジタル情報と現実世界を関連付けて人間の活動を支援するＩＴ技術です。開発中のシステムでは、小樽の観光スポットでスマートフォンのアプリケーションを起動することで、同スポットに関する動画映像と詳細情報が提供されます。

実証実験には深田ゼミの学生が参加しており、ＧＰＳで収集された観光者の移動データの分析も担当しています。これらは小樽市の観光開発に役立てられます。



国立大学法人 小樽商科大学